

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400183
法人名	ケアサプライシステムズ 株式会社
事業所名	グループホーム かりん
所在地	群馬県伊勢崎市寿町70-1
自己評価作成日	令和 4年 10月 6日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和 4年 10月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員一丸となり環境整備と新型コロナウイルス感染蔓延防止の為に清潔保持、24時間換気、アルコール消毒、マスク着用の徹底に力を入れ取り組んでいます。 ・利用者様が安全に穏やかに日々を過ごして頂けるように細心の注意を払い医療機関と密に連絡を行っています。 ・新型コロナウイルス感染防止策として外出や慰問の実施ができない中、季節料理、誕生日会、施設内装飾を行い可能な限り季節感を実感できるように取り組んでいます。 ・利用者様の個性やライフスタイルに合った支援をしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日々の生活を組み立てる中で、本人の思いである、やりたいこと、今までやってきてできること、楽しみごと等今ある力を活かして個別で支援している。具体的には、お位牌にお水を供え、歩数計で700歩を目安に館内を歩き、テーブル拭きや洗濯物たたみ、編み物や畑仕事、読書等を支援し、達成感や本人の満足感に繋げ、その人らしい生活を提供している。また、事業所の立地地域が洪水地域に指定されていることから、情報を地域の区長代理に相談し、意見を仰ぎながら確認し、利用者と職員が水害・火災・地震に対する訓練を継続的に実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議開始時に職員全員で理念の唱和を行い理念に基づき実践に繋がっている。	理念については、ホーム長が職員の態度等気付いたときにその都度タイミングを計って話をし、利用者のやりたいことを支援している時に、理念が共有されていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症感染予防、蔓延防止対策中の為、地域交流を自粛している。	地域の回覧板が回ってきている。野菜をいただいたり、地域の情報や災害について等、分からないことは区長代理に電話で質問出来る関係性がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会、訪問、慰問、見学に来られた方々からの認知症に対する質問や相談には、真摯に受け止め情報の提供をしている。 ※感染防止の為掲示板や電話にて対応行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症流行以前では、現状や毎月の行事報告をわかりやすく報告書・写真を作成し見て頂き、話し合い、意見を参考にして取り組んでいる。	運営推進会議は、コロナ禍のため2か月ごとに書面開催をしている。利用者の入退居・活動・行事報告を記載し、家族を含めた参加メンバーに議事録を配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者、GH担当課長が窓口となり日頃からホームの実情やサービスの取り組みを伝え積極的に協力関係を築いていけるよう取り組んでいます。	行政との連携は、日頃から相談、報告を通して連携している本部の課長が中心に行っている。介護保険の認定調査の立ち合いはホーム長等が行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの全職員が身体拘束について正しく理解しており毎月の職員会議でも身体拘束に関しての勉強会を実施。身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠に関しては、悪天候以外は解錠するように取り組んでいます。	玄関は解錠している。スピーチロックに関しては、職員同士で注意し合える関係性がある。定期的に勉強会で拘束、虐待防止について学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議や研修時、本部からの虐待に関する通達などで常に虐待防止に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度については、職員会議や運営推進会議等で学び必要性をご家族や職員間で話し合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族等の不安や疑問を尋ね、担当者から説明をし、利用者やご家族の理解、納得を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は書面にて行っている運営推進会議や、面会時、電話連絡時等で利用者やご家族から意見要望を聞き、管理者ならび職員、市役所担当者、地区役員の方々にも伝え協力を頂いています。	本人からは、日常的に風呂の順番やテーブル席について希望が出ている。家族への状態報告は警戒度により、リモートや電話、窓越しや対面会時で知らせ、その時に意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談、話し合い等で職員の提案や意見を職員会議等で活用するなど実践につながるようにしている。	現在は出勤者で朝・夕の申し送り時を利用して職員から意見を聞いている。個別ではホーム長と職員がLINEで意見交換しており、必要があれば職員間で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々が向上心、やりがいを持って働けるように人事考課表を作成したり各自の意見を聞いたり働きやすい職場環境になるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者の方に資格取得支援制度の利用を促すなど、資格を取得する勉強やアドバイスしながら行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ感染防止対策中の為控えていますが、以前は研修や勉強会等に参加することで他事業所との交流が出来、サービスの質の向上へ繋がっていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、利用申込み、契約時等事前に本人からの困り事や希望を聞き会話をしていく中で信頼関係等を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、利用申込み、契約時等事前にご家族が困っている事等を傾聴し話し合いを行って行く中で信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が必要としている支援を基本情報、フェイスシート作成で必要な支援計画を作成し本人やご家族に説明を行い対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者がその人らしい生活を送っていけるよう本人が出来ない事をさりげなく支援し暮らしを共にするうえでなんでも話せる関係を築き援助していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも協力していただき、本人の受診や外出等をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人(ご近所・友人・ご親族)との交流や関係が途切れない様訪問面会時、電話連絡時場所の提供や取次等の支援に努めています。現在、コロナ感染防止対策中につきリモート面会や窓越し面会対応中。	編み物が得意な利用者を中心に職員の見守りの下、編み物講座を開催したり、畑で野菜づくりをしている利用者もいる。また、洗濯物たたみやモップで掃除等、継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、利用者が孤立せず関わり支え合える様職員が間に入り支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご家族の経過フォローや相談支援に可能な限り努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話を通じ一人ひとりの気持ちや生活に対しての希望を伺い、希望に近づける様スタッフと話し合い検討行っている。	ケアマネジャーが週1回訪問し、利用者との会話を通じて意向等確認している。コロナ禍の為「外に出られないからつまらない」等の意見がある。家族からは、窓越しでの面会時や電話で希望等、確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族にお話を伺い個々の習慣や育ってきた環境を把握し、介護スタッフやケアマネと共有しケアに活かせるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医療連携ノート、申し送りや記録物など活用しご本人の様子がいつでも把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望や困っている事等を聞き取り、毎月のカンファレンスで介護スタッフ、ケアマネで話し合い検討しサービス計画を作成している。	独自の「施設支援経過記録」を基に月1回モニタリングを実施。介護計画については、アセスメント・担当者会議と共に3ヵ月毎に見直しが行われている。また、状態変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケア記録を作成し、医療連携看護ノートも閲覧出来るようにし、身体状況や生活状況を常に把握できるように共有して介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様なサービスを提供できるように多職種と連携を取りながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問、ボランティアの受け入れや買い物、散歩、外出を提供し豊かな生活が送れる様に支援している。現在、コロナ感染防止対策中につき自粛		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度訪問診療実施。利用者が安心して生活できる様に支援しています。かかりつけ医がある場合は継続して利用して頂いています。	入居時に説明し家族が選択した主治医を支援している。入居前のかかりつけ医を継続した場合は家族に受診をお願いしている。週に1度希望者には歯科の受診支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、連携訪問看護を利用し健康チェックや不安な事が相談できるよう体制を整えています。体調の変化時は看護師と連携し速やかに対応が出来る様努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、利用者の情報開示をし生活状況などが速やかに把握できるようにしています。退院時は、管理者とケアマネが退院時カンファレンスに参加し状態把握しスムーズに退院できるよう病院と連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を安心して迎えられるよう主治医、看護師と密に連携を図り職員間でも理解を深めご家族とも話し合い支援に取り組んでいる。	終末期支援の事例があり、今後も法人の終末期支援の指針に則り、家族の希望や協力医の支援の下、対応する用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応方法、AED講習参加や感染症予防の勉強会等も職員会議等で行い職員全員が周知し対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、日中、夜間想定で自主避難訓練と消防署立ち合い総合避難訓練も年2回実施。水や食料3日分の備蓄を用意している。	R4年8月職員と利用者参加の日中想定総合訓練を実施。月に1度昼夜想定自主訓練を水害・火災・地震を想定して実施している。職員の入職時には一通りの訓練を教えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や研修で尊重とプライバシー確保に関しての勉強会や話し合いをし人格尊厳、誇り、プライバシーの確保や配慮(声掛け等)しています。	本人からの「今してほしいこと、今したいこと」の希望をなるべく速やかに支援する方向で職員と共有している。申し送り時の呼称はアルファベットにして利用者にストレスをかけないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中でアセスメントしながら希望を聞き取ったり選択肢を与え自己決定出来るように働きかけ支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを大切にし希望に沿った生活が送れるよう支援に取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床、入浴、外出、イベント時等おしゃれや整容をその都度取り組み支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	色彩や盛り付け調理方法等工夫をし毎食提供をしています。支援として食前の準備や食後の片付けを一緒に行っている。	配食サービスを利用し職員が作っている。メニューは決まっているが変更もできる。誕生会や七夕会、納涼祭のお楽しみ食を楽しんでいる。おやつを移動スーパーが訪問しているので購入している。テーブル拭き等手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量に関して実施記録にその都度記入し対応。ご家族に習慣や好みを聞き提供等取り組み支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、誘導行い義歯使用者には、毎晩洗浄後浸け置き消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施記録の排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンに合わせて声掛け、誘導を行い自立支援に取り組んでいます。	トイレでの排泄を支援している。自立の方には声掛けや誘導、訴えや定時の声掛け等その方に合わせた支援をしている。居室のポータブルトイレはその都度きれいにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を中心に提供、10時の飲み物提供時牛乳多めのカフェオレやホットミルク等提供し日中は、体操や歩行運動をケアに取り組む支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせて入浴を行っている。曜日や時間帯を決めず安全に配慮して個々に沿った支援を行っています。	ゆず湯や入浴剤で楽しい入浴支援を心がけている。毎日準備はしているが、概ね週に2回入浴している人が多い。シャワーのみの方が2人いる。一番風呂の希望者もいる。	これからも前日の入浴者にも声を掛け、利用者の希望を聞く等、選択の幅を確保してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、リビングソファ等で休まれたり過ごされている方、利用者個々にあった休息の時間の提供し支援に取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量は連携医師、連携看護師の指示に従っています。内服の目的、副作用については、連携医師、連携看護師、薬剤師の説明にて理解し錠剤内服が困難な方には、散剤にて対応内服介助を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員会議、カンファにて個々に合った役割、楽しみ事を話し合い取り組み支援を行っています。コロナ感染防止対策中につき現在、現在買い物支援は、自粛中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせてテラスにて外気浴や近所の店に歩いて買い物等職員や家族と一緒に掛け等支援行っていますがコロナ感染防止対策中につき現在、自粛中。	コロナ禍ということで日常的に外出する機会はない。テラスでの外気浴や畑の草むしりや野菜の成長を眺める支援をしている。	外部の資源を利用し販売車が来た時に利用者が買い物できるように工夫をしたり、個別でドライブ等の支援をしてはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方がいないのでホームで預かり管理しています。個別買い物に行かれる方は、職員が付き添い買い物支援行っていますがコロナ感染防止対策中につき現在、自粛中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は、職員が取次対応しています。ご家族、ご友人からの電話も対応しています。1名携帯電話所持されています。現在コロナ感染防止対策中につきオンライン面会推奨し実施しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニング、リビングの椅子、テーブルの配置等考慮をし設置、季節感が分かるように装飾したりと居心地良く過ごせる空間造りの工夫をしています。	換気は法人の決まりに沿って行っており、24時間の換気や空気清浄機を稼働させている。ソファや椅子が置かれ、見やすいカレンダーや食事の献立が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を考えテレビ周辺のソファや椅子の配置を考慮し設置したりと工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご本人のご家族と相談し使い慣れた好みの物を持参して頂いたりと安心して生活出来るように工夫をしています。	換気は法人の決まりに沿って行っている。エアコンとベットは居室に備わっている。自宅から使い慣れた寝具、テレビやタンス、携帯電話、お位牌が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の希望や出来る事の見出し安全で安心を第一と考え自立の喜びと「出来る事」「分かる事」を活かして送れるように環境造りを工夫しています。		